

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 3 月 6 日作成)

小委員会名	建物の遮音設計(床衝撃音)刊行小委員会		主 査 名:井上 勝夫 就任年月:2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 企画刊行運営委員会		委員長名:加藤 信介 主 査 名:吉野 博
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2008 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1988 年に刊行された、建築学会編:建物の遮音設計資料(技報堂)、の内容が古くなったことや掲載データの充実化を図るため、新たな知見をもとに遮音設計資料の床衝撃音に関する章のみを対象として新刊を刊行する。 ・ 初年度:現出版物の構成、改訂の必要性のある部分等の検討。執筆担当者の決定。具体的な執筆に取りかかる。出版社との打ち合わせ。 ・ 次年度:前半に執筆、内容検討を終了。査読も完了する。後半には出版に向けた作業に入る。刊行時、出版物をテキストとするシンポジウムを開催する。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無:無 井上勝夫(日本大学) 古賀貴士(鹿島建設) 中澤真司(鉄建建設) 岡野利行(竹中工務店) 田中学(日本建築総合試験所 試験研究センター) 中川清(清水建設) 平松友孝(大成建設) 平光厚雄(建築研究所) 安岡博人(ベターリビング) 安岡正人(東京理科大学) 山下恭弘(信州大学) 渡邊秀夫(音・環境研究所) 渡辺充敏(大林組)		
設置 WG (WG 名:目的)			
2006 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無: 委員会 HP アドレス:	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 執筆担当者を決定し、原稿執筆を進めた。年度内に素案作成終了の予定。 2. 時間を要したが床衝撃音データも多数(1,000 件程度)の提供を受けた。
委員会活動の問題点・課題	

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度目標の通り、執筆担当者を決定し、原稿の執筆に入ることができた。年度末には素案完成の予定である。 床衝撃音データの提供がスムーズに行われていれば、更に活発な活動ができたと思われる。 ・ 次年度早々には原稿の読み合わせ、調整に入り、出版に向けた作業を開始する。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。